

# 社会実験＜体験ドッグエリアのがわ＞アンケート報告概要

2009.4.

**アンケート実施概要** 「体験ドッグエリアのがわ」の参加者および見学者に対して、調査協力を依頼し、任意提出として即日（3月21日）回収した。回収率100%、調査協力者の総数48であった。

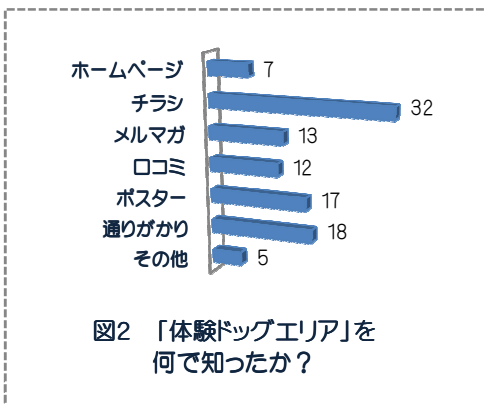
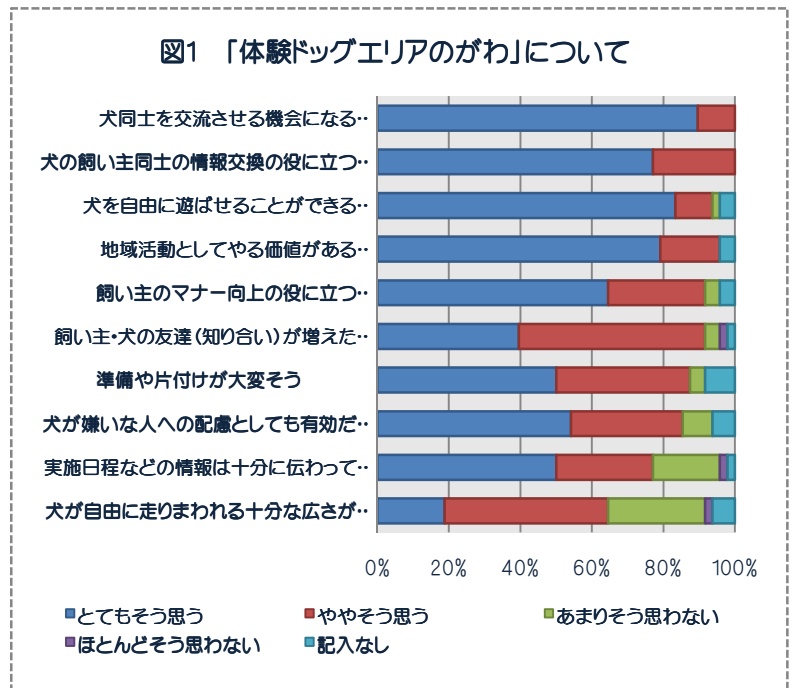
## 1. 多世代、広範な地域の犬の飼い主たち、普段の散歩では利用しない人も参加

40歳代を中心に10～70歳代に渡る多世代、男性26%、女性59%（未記入15%）であった。居住地域は、狛江、喜多見、成城、調布他さまざま、92%が「犬を飼っている」とした。95%がドッグエリアを利用、他は見学のみであった。74%の人が実施地域を「いつもの散歩で利用する」としたが、「利用しない」人も18%含まれた（未記入8%）。

## 2. 「体験ドッグエリアのがわ」は「犬の同士を交流させる機会になる」「犬を自由に遊ばせることができる」と回答（図1）

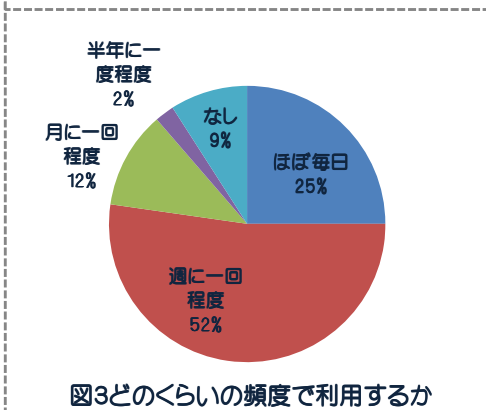
「体験ドッグエリアのがわ」（第3回アンケートの自由回答をもとに作成した質問）について、「どの程度そう感じるか」選択肢回答を得た結果、半数以上の回答者が「犬同士の交流」、「飼い主の情報交換」、「マナー向上」や「犬が嫌いな人への配慮」、「地域活動としての価値」に対し、「とてもそう思う」と回答した。

一方、「十分な広さがある」「情報が十分に伝わった」に対しては、「あまりそう思わない」とする人が25%を超えた。



## 3. 「体験ドッグエリアのがわ」を知ったのは「チラシ」「ポスター」のほか、「通りがかり」も・・・（図2）

「チラシ」を見て参加した人が最も多かった。「ポスター」や「メルマガ」のほか「通りがかり」や「口コミ」で知ったとする方も依然として多かった。



## 4. ドッグランが常設されたら98%が利用すると回答

今後の「体験ドッグエリアのがわ」への希望として、「現在の場所に常設ドッグランがほしい」とした人が70%、「現在の場所でもっと頻繁に行ってほしい」とした人が21%であった。また、98%の人が、「地域に常設ドッグランが設置されたら」利用すると回答した。利用すると回答した人のうち52%が「週に一回程度」、25%が「ほぼ毎日」利用するとした（図3）。

文責：菊池